

臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成5年新春号



新年雑感

校長さんの任期が短い

東京支部長 佐伯 益一



“最近、村松高校は変わってきましたね”とよく耳にする。何処がどう変わったのか具体的には判らぬながらも少くとも悪い方へ変わったのではない事は確かであろう。生徒の質が変わったのか、先生の指導によるものか明確ではないが変わったということが校外の第三者に認識されるようになったのはこの二つが一体となっていなければならぬ筈である。

「まだまだ村松は」という声の多い中で、この言葉は同窓としてやはり嬉しい事であり、今後どのように変わってゆくか愛情をもって見守ってゆきたいと思う。

ところで此の頃奇異に感ずるのは校長さんの在職期間がきわめて短いことである。学校を運営し生徒に対する精神的訓育の責任の非常に重いことを考えるとあまりにも短すぎるようだ。私の旧中5ヶ年の間に2人の校長先生が在職された。一人は小野寺先生であり、一人は那須先生であった（何れも故人）。那須先生からは4年間も薫陶を受けたし、小野寺先生から人間的に随分影響を受けたと先輩からも聞いている。そして今でも強烈に印象に残っている。然し昨今の校長さんの在職期間は僅か一年か二年である。地域に早く馴染み、情熱をもって理想実現のため努力すべく意気こんで赴任された校長さんが在職一年か二年で転勤ということになれば恐らく何も出来ないのではないか。生徒も困惑するであろうし、御本人も戸惑う事であろう。定年は、ある程度止むを得ないとしても、又、出世の一段階と考へたくもないがあまりにも短い。じっくりと腰を据えて諸先生、生徒、地域の人達とも魂の交流が図れる期間が必要であろう。私見だが少くとも4年や5年は在職していてもらいたいものである。ある校長さんと語ったことがある。「先生、もう行っちゃいますか」「申し訳ない、何しろ宮任えなもんですからね」と。悲しい思いをした。

私の時代には県下に17～8の学校しかなかったが、今では100余も県立高校がある。時代が変わったといえればそれまでだが県教委としても序列、年功、移動等で大変と

は思うが、真に学校教育のあり方と生徒の立場を考えるならば教育現場の最高責任者たる校長さん方の在職期間をもっと考慮すべきではないかという県教委に一言物申したくなるのである。

“学校が変りましたね”のこのひと言は赴任された校長先生の短期間ながらの努力の結果とうけとめる。と同時に人格に欠ける先生など一人も居ないと信ずるからである。

さて、こゝで話を変える。

“臥龍”という言葉はいつ頃、誰が名付けたか知らぬが、私の長い人生の間、この言葉に非常な愛着と親しみを持っている。恐らく、一万数千名に及ぶ卒業生、在校生にとって永遠に忘れられない言葉であろう。辞書によると、“臥龍”とは、文字通り伏したる龍“臥龍はいつか雲雨を得ると天に昇る。未だ時を得ずしてひそみ居る英雄の喩”又、野にあって未だ世に知られない大人物”とある。例として諸葛孔明の名が挙げられている。

然し、我々としてはいつまでも寝ているわけにはゆかない。現に実社会に於て、実業界に、教育界に錚々たる我々の同窓が活躍している事を思えば今こそ臥龍正に起つべしの感を深くする。世界は狭くなって来ている。世情は日々変っている。この時期にあって我等松高健男女、更に切磋琢磨の功を積み時代を先取り指導してゆく事を期待するのである。松高に臥龍ありと声を大にして叫びたいのである。松高在校生の尚一層の奮起を望みたいのである。

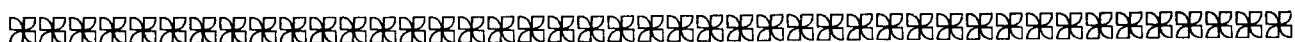
新年のあいさつが最後になった。平成四年は皆様に変お世話になった。有難く御礼申し上げます。新しい年も相変らず多事多難な年となるであろう。同窓各位には時節柄、呉々も御健康に留意されて7月3日開催予定の支部大会に元気なお姿でお互い相見える事を願い簡単ではあるが新年のあいさつと所感の一端を述べて御あいさつに代える次第である。

☆-----☆

(表紙写真について)

地域の足として大正11年に発足以来63年に亘り走り続けて来た21.9キロの蒲原鉄道は、昭和60年3月末日をもってその80%にあたる17.7キロを廃止し、今は五泉、村松間4.2キロを残すのみとなった。写真は村松構内におけるモハ61、モハ91型車両で現役である。

(蒲原鉄道写真集より)



第35回東京支部大会

平成4年度の同窓会東京支部大会は晴天に恵まれた6月6日午後3時より母校から茂野会長、新任の徳橋校長、江口、関谷両先生の4人の来賓をお迎えして上野“池之端文化センター”で開催された。この日出席の同窓会員は昨年より若干少く94名でいささか残念ではあったが会は例年の如く大盛況裡に終ることが出来た。本年は特に進行スケジュールを分刻みに組み、そしてそれが時間通り進み、司会者の腕の冴えた処を見せたのは大きな収穫であった。初の試みとしてジャンケンゲームを行い優勝者3人には佐伯賞として“越の寒梅”が夫々贈られ、又特別出演の杉幸子（水沢幸子、高21）さんも今年は華麗な洋

衣装で熱演、得意な持ち歌で万場の喝采を浴びた。大会終了後は二次会に移り先生方も加え約30名が参加、カラオケに精を出し、あとはそば屋で腹ごしらえ。一切合切が終ったのは夜も11時になってからであった。大会の式次第は会報にも載っており例年通りであるので此所では割愛させて頂くが武藤三郎氏の提供による写真によって今一度当日の感激を思い起して頂ければ幸いである。出席者の皆さん、寄付をして下さった皆さん、抽選賞品を持ち寄って下さった皆さん、一生懸命働いてくれた役員の皆さん、みんな、みんな、ありがとうございました。

支部大会雑景



ジャンケンゲーム優勝者（右から3人）



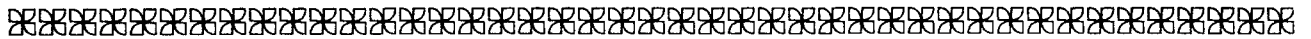
長老の皆さん



左から川瀬前赤山会々長、茂野同窓会長
亀嶋赤山会々長、徳橋校長



激 唱



支部大会出席の皆さん(4.6.6)

◎旧中の部()内は卒業期回数 25名

川瀬五郎(11) 村田泰次郎(14) 小田怒哉(16) 見方謙策(18) 横松宏平(20) 佐久間精一(20) 中村倉吉(22) 亀嶋謙(22) 松田長四郎(24) 芳原英男(24) 堀哲二(24) 伊藤秀男(27) 佐伯益一(27) 中野博(27) 西山莊平(27) 相田幸四郎(30) 伊藤勇五(33) 加藤三代太(33) 齊藤和男(33) 中村雅明(33) 芳賀健一(33) 平上憲(33) 高久貞夫(34) 武藤三郎(26) 福原平八郎(26)

◎旧高女の部(同上) 4名

田村ミツエ(24) 一氏愛子(25) 岡木和子(25) 佐藤玲子(25)

◎高校男子の部(同上) 42名

青木猛(2) 市川始(2) 近藤毅夫(2) 篠川恒夫(2) 丸山貞次(2) 関孝世(3) 鶴巻昌平(3) 渡辺八郎(3) 亀山知明(3) 土田猛(3) 大江佳一(4) 鈴木多喜男(4) 鈴木健司(4) 大島惣四郎(4) 沢出赴允(6) 松田輝夫(6) 佐久間英輔(6) 近藤英洋(7)

八木又一郎(7) 関和世(8) 塚田勝(8) 松尾正春(8) 山崎輝雄(8) 吉井清(8) 山田一男(8) 石川峰雄(8) 鈴木輝雄(8) 佐藤匡秀(8) 大西範孝(9) 石黒四郎(9) 近藤尚志(10) 高岡雄三(10) 鶴巻浩(10) 宮沢正由(10) 大橋貞夫(10) 佐藤勉(11) 安中啓作(11) 武藤正昭(13) 青木敏和(18) 浅見祐治(18) 菊地一雄(18) 笠原静夫(18)

◎高校女子の部(同上) 23名

白石キヨ(3) 杉山和子(3) 佐藤八重(3) 深見洋子(7) 岡部ユキ(8) 片柳ムツ(8) 木村孝子(8) 治田レイ子(8) 緒方美恵子(8) 高瀬笑子(8) 波田ミサエ(8) 福田ジュン(8) 稲垣美知枝(8) 山西愈佐子(8) 飯利幸(10) 眞水道子(10) 小島典子(10) 近藤藤子(12) 田渕みやの(12) 中島和子(12) 木村園子(12) 袖山幸子(16) 小沢幸子(21)

合計 94名

祝電

支部大会当日、祝電を頂戴しました。
ご厚意に感謝申しあげ、ご紹介いたします。

◎ 越後路も初夏を迎えております。昨年多くの方々が松高80周年を祝い、記念事業に、念願の雨天練習場が完成し松高球児の息吹を強く感じております。本日、御招待に与り皆様とお目にかかることを楽しみにしておりましたが本県高体連の大会と相い同じくし誠に残念でございます。松高同窓会東京支部大会の益々のご隆盛を念じ、また、同窓会各位の一層のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉に替えさせていただきます。

新潟市立沼垂高等学校長

渡 邊 建 夫(元松高校長)

◎ 新潟県立村松高等学校同窓会東京支部大会の開催を慶び、心からお祝いを申し上げます。永年の歴史と伝統に輝く名門村松高等学校は同窓会々員皆様方の暖かいご支援を受けて輝かしい躍進を続けており誠に同慶にたえません。愛する母校に対する平素のご支援、ご努力に、あらためて敬意を表する次第であります。本日はまた、日頃各界でご活躍の会員皆様様が、こゝに相集い互いに盃を交わして歓談、相互の親睦を深められるものと存じます。当支部大会のご盛会と大いなる成果をご期待申し上げますと共に東京支部並びに会員皆様様の益々のご発展をお祈り申し上げお祝いにさせていただきます。

新潟県立新発田高等学校首都圏同窓会顧問、

衆議院議員 岩 村 卯一郎

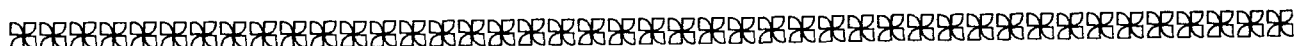
祝電

新発田高、津川高、両同窓会に祝電

松高同窓会東京支部の大会と時を同じくして新発田高校(6月6日)、津川高校(6月28日)の両校の東京に於ける同窓会総会が開催された。以下は東京支部から打電した祝電の全文である。

(校名省略) 同窓会総会の開催を祝い、盛会を祈ります。今後共両校の連繫を深くし、親睦の輪を拡げてゆくことを期待しております。御出席の皆様の益々の御健勝を祈り、御挨拶に代えます。

村松高校同窓会東京支部長



ありがとうございました

(1) 平成4年度会費納入状況（9月30日現在）

◎男子の部

相田英三郎・相田和平・相田幸四郎・相田忠亮・青木猛・青木敏和・新井康夫・安中啓作・安中盛介・五十嵐一郎・伊藤秀男・伊藤勇五・石井典雄・石黒四郎・石川峰雄・板垣文平・岩見益教・今井道夫・小田怒哉・大江佳一・大島惣四郎・大橋文夫・大橋秀雄・大橋貞夫・岡村嘉志・奥津嘉雄・加藤豊・加藤三代太・笠原健二郎・笠原大四郎・笠原静夫・片桐賢太郎・亀嶋謙・亀山知明・川合敏男・川瀬五郎・川村完爾・川崎進一・岸谷武・杵渕政海・菊地一雄・熊倉悟・熊倉芳夫・小島真一・小浜毅郎・小日山芳栄・小池生夫・小出和夫・近藤英洋・近藤尚志・近藤毅夫・佐伯益一・佐久間精一・佐久間二郎・佐久間英輔・佐々木秀和・坂上卓夫・佐藤起・佐野善吾・斉藤和男・斉藤誠七郎・斉藤朝之・篠川恒夫・沢出起允・沢出晃夫・茂野宏一・新保優・杉山喬・鈴木健司・鈴木多喜男・鈴木輝雄・関孝世・関八十一・関山健芳・瀬倉武志・田代正夫・田代信雄・高岡雄三・高久貞夫・高地一郎・高地彰・高橋研治・団順一・千代国一・地濃昇一・塚田勝・土田猛・坪谷次郎・弦巻等・鶴巻浩・寺田徳和・寺田徳隣・寺山和夫・中野博・中村倉吉・中村雅明・長野武夫・成海正弘・奈良泰夫・二平晶・二宮文三・西山莊平・根本俊夫・芳賀健一・波田野義孝・長谷川五郎・福原平八郎・堀哲二・堀直昭・堀川俊郎・松尾貢・松尾正春・松尾了・松尾保司・松尾真一郎・松田長四郎・松田輝夫・三室茂和・見方謙策・宮健三・宮沢正由・宮嶋八弥・武藤三郎・武藤正昭・村田泰次郎・八木又一郎・山崎輝雄・山崎正男・山田一男・横松宏平・横山信夫・吉井清・吉田正平・吉田公男・吉田忠至・芳原英男・渡辺文男・渡辺八郎・関和世（139名）

◎女子の部

荒井るり子・荒瀬喜美子・阿部ミサ子・飯利幸・石井洋子・一氏愛子・稲垣美知枝・内田道子・小沢幸子・緒方康子・緒方美恵子・大野靖子・大橋玉枝・岡部ユキ・岡本和子・片柳ムツ・川西恒子・神田正子・木村孝子・木村園子・熊倉芳枝・久我マキ・小林早月・小島典子・近藤昌子・近藤燦子・佐藤八重・佐藤玲子・斉藤英子・斉木明子・坂爪圭子・白石キヨ・新保ミワ・杉山和子・鈴木則子・袖山幸子・田村ミツエ・田淵みやの・田中富子・高瀬笑子・寺山征子・出口テル・中島和子・中村俊枝・波田ミサエ・原ヤス子・馬場淑子・治田レイ子・深見洋子・福田ジュン・藤崎トヨ・堀和子・真水道子・升本久子・松本豊子・宮川陽子・村田瑠都子・山西愈佐子・山田ノリ・横溝田鶴・吉井祐江・渡辺ミツ（62名）

男女計 201名

(2) 寄付金納入者（年会費振込時（ ）内は金額 単位千円）

◎男子の部

相田幸四郎（2）伊藤秀男（10）伊藤勇五（7）加藤豊（7）亀嶋謙（10）亀山知明（5）川瀬五郎（3）小日山芳栄（7）佐久間二郎（2）佐藤匡秀（1）沢出起允（2）沢出晃夫（3）坂上卓夫（2）茂野宏一（2）杉山喬（2）関山健芳（2）田代正夫（7）寺山和夫（2）長野武夫（1）奈良泰夫（7）西山莊平（2）堀哲二（10）堀川俊郎（5）松田長四郎（2）松田輝夫（2）武藤三郎（2）武藤正昭（2）山崎輝雄（7）芳原英男（2）（29名）

◎女子の部

阿部ミサ子（2）石井洋子（1）一氏愛子（2）緒方康子（3）大野靖子（2）大橋玉枝（3）岡本和子（3）神田正子（3）小島典子（2）新保ミワ（2）寺山征子（2）中村俊枝（3）山西愈佐子（2）横溝田鶴（2）（14名）

(3) 大会当日受付寄付（ ）内は金額 単位千円

◎男子の部

石黒四郎（1）大島惣四郎（10）大橋貞夫（1）佐伯益一（1）篠川恒夫（1）沢出起允（1）鈴木多喜男（1）塚田勝（3）鶴巻昌平（1）鶴巻浩（1）中村倉吉（1）西山莊平（1）横松宏平（1）渡辺八郎（1）（14名）

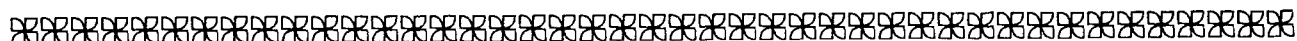
◎女子の部

岡部ユキ（10）（1名）

◎特別寄付（送金）

堀哲二（10）（1名）

合 計 延59名 195,000 円



抽選景品寄贈の皆さん

平成4年度支部大会収支決算書

平成4年6月6日 池之端文化センター

大会を盛り上げるため恒例の抽選会を行っておりますが本年も又たくさんの景品を寄贈して頂きました。ありがたく御礼申し上げます。尚、受付混雑のためお名前の記入洩れがあったかも知れません。あしからず御諒承の程お願いいたします。（景品名省略）敬称略

伊藤勇五・佐伯益一・斉藤和男・中村倉吉・松田長四郎・武藤三郎・福原平八郎・大橋貞夫・近藤毅夫・佐久間英輔・篠川恒夫・沢出赳允・鈴木健司・塚田 勝・渡辺八郎・岡本和子・佐藤玲子・眞水道子・岡部ユキ・小島典子 以上 20名

収入の部			支出の部		
大会会費		792,000	大会会場費		678,513
男@9,000 67名	603,000		会場支払	656,265	
女@7,000 27名	189,000		持込洋酒	22,248	
祝儀		40,000	謝礼		60,000
本部	40,000		余興	50,000	
			受付	10,000	
			記念品		20,462
			通信費		38,560
			雑費		32,345
			小計		829,880
			剰余金		2,120
合計		832,000	合計		832,000

同窓会本部総会（8.17）

母校同窓会本部の総会は8月17日午後5時から村松町“新滝”にて開催され、総会の主なる議題として次の事柄が報告、決定された。

- ① 今まで会則に明記されていなかった会費徴収の項が加えられた。が、徴収方法、金額等については未定である。
- ② 副会長を3人とし、新たに伊藤淳一氏（旧中33回）が選ばれた。五泉地区の樋口政文氏（旧中28回）が引退したが後任は未定。
- ③ 理事の中から常任理事を選任、総務（28名）、庶務会計（5名）、広報（7名）、活性化（18名）の4常任理事会が設置され夫々役員が指命された（兼任を含む）
- ④ 会報“松城”の発行を年1回とした。
- ⑤ 大学進学者の3人について顕彰が行われた。（九州東海大1名、新潟産業大2名）。

午後6時から懇親会が始まったが乾杯音頭は例によって佐伯支部長が指名され、間もなく学校を紹介する生徒自作のビデオ放映が始まったがアルコールの入ったあと

の放映は折角の企画ながら見る人の少なかったのは残念に思う。因みに当日の出席は70名の出席予定者の内50名をちょっと上廻った位、女性は僅か4名であったのは寂しい思いである。東京支部からの出席は佐伯支部長、中村事務局長、伊藤組織副委員長、佐久間、鶴巻の両幹事で5名であった。

尚、会則には総会期日は毎年8月17日に開催することが謳われているが敢えて8月17日に拘る必要はないのではないかと。まして時間が午後5時や6時開会ということであれば、村松町以外の同窓の人達は殆んど参加が望めない状態である。17日前後の土曜日曜の昼頃から開催した方がもっと効果的であるのではないかと。検討をお願いしたい。同時に名札の着用も是非お願い致したい。これは前にも深見幹事からお願いが出ていた筈であり、これはお互に交流を図るためにも必要であろうし、当日名札を着けて出席した東京支部の人達が好評を得たのも理由の無い事ではなからう。本部役員の方々によりをお願いしたいと思う。

（文責 広報部）

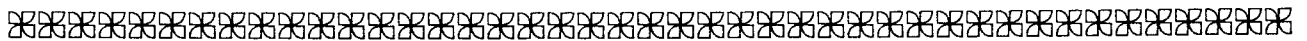
平成5年度支部大会開催のお知らせ

平成5年度（第36回）松高同窓会東京支部大会を

7月3日（土）午後3時（受付2時）より上野不忍池畔

池之端文化センターで開催いたします。お誘い合せの上、多くの方々の出席をお願いいたします。

（前回の会場と同じです）



お便りの中から

◎ 先日は同窓会の写真をお送りいただき、有り難うございました。ワイドなものでびっくりしております。同封しましたテレホンカードは第3期生の同期会を7月11日～12日に湯沢東映ホテルで行った時の記念品として作成したものです。会は先生方が3人、同期生61人（女性14人）が岡山、東京、新潟、五泉、村松、新津、津川より集い、ホテルの仲居さんが呆れるほど遅くまでアルコールを飲み、歌を歌い、語り合い楽しい一夕でした。

（高3回、関 孝世、支部幹事）

◎ 先日は私ども3回生の記念となる写真をお送りいただき恐縮いたしております。私ども3回生でただ1人村松高校に残り教師をしている「江口」君を囲んだ写真で喜んでおります。私も本年12月に定年を迎える歳となり同窓の方々との出会いの場が一層懐かしく感じられるこのごろです。7月11、12日越後の湯沢で東京が幹事となり3回生の同期会を先生を囲んで10年ぶりに全国から多数集まり盛大に行いましたが、それにつけても東京同窓会の役員の皆様方の日頃のご苦労の一端を実感し、あらためて感謝の念で一杯であります。ご苦労様でございます。どうぞ今後共よろしくお願い申し上げます。

（高3回、亀山知明）

◎ 支部長様はか一同様ほんとうにご苦労様です。私が初めて同窓会に出席したのは、姉松沢トシエ（旧女19回）に誘われ、確か市ヶ谷“加茂”でした。久しぶりに親類の方達に逢い誘い合わせて今年も楽しみに出席させて頂きます。（支部大会出席に寄せて）

（旧高女24回、田村ミツエ）

◎ 何かと多忙にしております。ハロードに村松高校および村松町が特集されており、購入しましたが、懐かしい人達の名前もあり想いひとしおでありました。

（高6回、松本豊子）

◎ 8月27日の同級会は本当に暑かったですね。それに比べて今日此の頃はすっかり涼しくなり畑仕事でも汗が少いです。

学校の正門に東京支部協賛による補修が行われた事は本当に良い事をしたんですね。東京支部の「重み」がグンと出た感じがします。東京支部の金字塔だと心から喜んで居ます。

（在福島市、旧中27回、波田野義孝）

◎ （前文略） ところでお申越しの支部大会でのスナップであります。果してご期待に添えるものがあるだろうか戸惑っているところでございます。と申しますのは、何時になっても使いこなせない腕の悪さ、工夫の足りないアングル、結局は私の頭脳の素材の問題が根本ではありますが満足出来たというのは一枚もないのが本音でございます。それでも尚、懲りずにカメラを持って行くのは年1回の支部大会で久しぶりに歓談のひとつきをすごしている同窓の友が和やかな雰囲気集いあえる喜びの表情を撮れたら嬉しいとの思いがございます。それが次年度の集いに何等かのプラス面につながったり、「揚げよう松高同窓会の輪」の一環になってくれればと、それこそ望外の喜びになるささやかな願いのようなものがあるわけです。従って支部大会の思い出深い背景が必須条件になるわけですが、それが思うように一致しない悩みがございます。つい安易にその時、その場のグループでシャッターを切ってしまうので支部大会の会場という一見して理解出来ないものが多くなります。個々には75人の方にお送りしておりますが、それぞれの方が支部大会当日のものとメモして頂いて下さっているのではないかと思います。

もっとも出来の悪いスナップは没になってるものも多いかも知れませんが多くの方々から御丁寧なお礼状を頂いております。

（後文略） 10月8日

武藤三郎氏（旧中26）から佐伯支部長へ。

謹啓

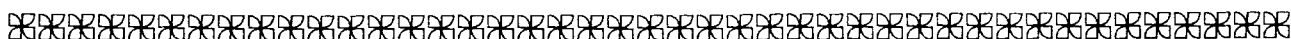
今般松高東京支部同窓会の大会に半ばセールスにお邪魔させていただき大変失礼致しました。何人かのまたなつかしいお顔にも接しさせていただきましたが何よりも幹事御一同様の並々ならぬご工夫にて大変な盛会でありましたこと、また重々のご接待を賜り、お土産まで頂戴、まことに御厚志有難うございました。心から御礼申し上げあわせて東京の皆様の一っそうの御発展をお祈り申し上げます。

有難うございました。

6月8日 村松高校 関谷正中

◎ 前略

去る6月6日には同窓会東京支部大会にお招きにあずかり誠にありがとうございました。学校からは3人も参加させていただきましたのにもかかわらず歓待にあずかり恐縮いたしました。お陰様で本当に楽しい、しかも心あたまる一時を過ごさせていただきお礼の申し上げます。



うもございません。御参会の皆様の母校に寄せる熱き思いや故郷の山河に対する懐旧の情がそこに身を寄せる私共にひしひしと伝わり、有難いなあという感謝の念に一杯にひたることができました。

東京の地で新潟の暖かいふところに大きく、やさしく包まれたような心安まる一時でございました。このようなすばらしい体験は是非とも折をみて教職員をはじめ生徒諸君に伝えたいと強く感じております。と同時に皆様の母校に職を奉じている私どもは精一杯の努力を惜しんではならないと痛感いたしました。なにとぞ折にふれまして私どもに御支援、御鞭撻を賜りましたなら幸甚でございます。

去る11日には恒例の体育祭を終了することができました。午後男子全員による棒倒しの競技のとき激しい雨が降りましたが三年生がみごととなりリーダーシップを発揮し応援歌を元気よくうたい勇壮に、しかも整然と競技しましたのを見ましたとき、私は非常な感動を覚えました。上半身裸でずぶ濡れになりながら一糸乱れぬ行動はさわやかでさえありました。

大変お世話になりながらお礼が遅くなりました事を深くお詫び申し上げます。

東京支部の方々には折がございましたら私どもの気持ちをご鶴声賜りましたら幸せに存じます。東京支部の益々の御隆昌と佐伯支部長様はじめ役員の方々全員の皆様のご多幸、ご発展を祈念申し上げお礼といたします。

6月15日 新潟県立村松高等学校

校長 徳 橋 時 男

◎（前略） 先日は、東京支部の会報をお送りいただき、心せく思いで拝読いたしました。また6月6日の支部大会のご案内をいただきながら所用のため出席できず失礼いたしました。当日はさぞ盛大で意義ある会であったこととお祝い申し上げます。

新発田高校の東京支部総会のことにつきましては、新発田の鈴木校長先生からお聞きしておりそれぞれの同窓の方々が母校に抱いている情熱の輝きに心打たれる思いです。私の生れた新発田と松高はいろんな意味でまさに兄弟、そんな輪を拓げることが、支部長さんの願い、これは大変すばらしいことだと思います。

さて、いまや高等学校も学校週五日制の実施の時を迎えました。それは子供たちが、自ら学ぶ意欲を主体的に判断し行動できる者に成長させるためには、家庭や地域における教育の場を再認識し、その重要性を生かさねばならないというものであります。家庭や地域におけるさまざまな体験とおして、たくましく生きる子供たちを育てようという教育改革であります。私が在任中の一年間、いろいろな場で強調してきました。「松高はこの地域の学校である。この視点に立って松高を育て、ほしい」ということを具体的に実践するのが、この九月からはじまる学校週五日制であります。

どうか同窓のみなさまも五日制の趣旨を十分ご理解され、松高にご支援下さいますようお願いいたします。東京支部のみなさんのますますのご健勝をお祈り申し上げます。

佐藤義雄（前松高校長）

〔赤山会例会〕

◎ 恒例の赤山会例会が10月24日（土）午後1時より市谷のアルカディア市ヶ谷（私学会館）で旧中卒業生21名が参集して開催された。開宴にさきだち第25回卒業の現日本陸連理事の吉田正平氏の陸上競技生活の回想ばなしがあり、出席者に深い感銘を与えた。特に兄さんから厳しい薫陶を受けた事、本田実次先生の指導、笠原昇先生から世話になった話、全国大会で200mと400mで優勝した話等々は更に新しい感動を呼び、今後、日本としてはスプリンター、マラソン選手等の養成に熱を入れなければならぬだろうとして話を結んだ。

続いて川瀬五郎長老の乾杯音頭で宴は初まり、此所彼

所で夫々旧友と歓談、和気あいあいの内に午後3時、旧校歌を斉唱して解散した。



クラス会便り

◎旧中27回卒 クラス会

旧中27回（昭和17年）卒業の同級会は8月27日、咲花温泉末広旅館で開催された。総勢24名は正午、母校に集り内庭にて記念撮影の後、旅館のマイクロバスで滝谷慈光寺参拝、村松公園、愛宕山等を見て廻り旅館に到着、早速、山本、棚橋両幹事の挨拶のあと佐伯東京支部長の乾杯音頭で祝宴は始まり、あとは例によっててんやわんや、カラオケが続き、これが役所から“お年寄の皆さん”といわれて年金やいろんな書類を貰う70歳近い人達の集いかと疑いたくなるぐらいの若々しさ、何時までも如く



松高女傑社長（旧女25回卒 岡本和子さん）の新社屋落成

残暑厳しい去る8月29日（土）東京近郊都市戸田市に今春以来、槌音高く建築中だった念願の新社屋落成の祝賀の日がやって来た。株式会社和樹（代表取締役岡本和子）五階建の誕生である。彼女は昭和41年よりダスキンの特約店として地域社会に其の業績を伸ばし、今は戸田市に於いては、この業界では押しも押されぬ存在となってきた。

顧みるに彼女は昭和5年9月22日に、新潟は北蒲原郡安田町に生を享け、旧制村松高女を卒業して家族ごと上京し、結婚して戸田市に移り住んだのである。そして団地生活の時、ダスキンの利便さにほれ込み、これを地域



ありたいもの。中には一睡もしなかったというものもあるという。ちなみに当夜は吾々のみの貸切りであり、翌日は又バスで五泉駅まで送って貰い解散。

尚、当日は折角の夏休中にもかゝらず、わざわざ登校し我々を迎えて下さった徳橋校長に厚く御礼を申しあげる。平成五年度は新潟の当番となる。

◎旧中24回卒 クラス会

7月12日、月岡温泉にて10名。

◎旧中33回卒（旧中最後）クラス会

10月31日、東蒲原郡鹿瀬町“ホテル 角神”で、同期生63名（男子のみ）が集まり盛大に行われた。支部会員

及び東京方面からは次の10名の方々が出席した。伊藤、加藤、斉藤、中村、平上、星野、金子、岡村、川口、皆川。



社会に広めたいと発心し、現在の地に家を建て、それから20数年、ダスキン販売一途に拡張を展開して来たのである。そして今、又、新社屋の誕生で新たな人生のステップを踏みこんでいる岡本さんのパイオニア精神に対して、茲に深く敬意を表するものである。

祝賀の挨拶は地域の代表である市長から始まり、議会の代表の市議会議長等、些か長たらしい挨拶が延々と続き彼女の交際の広さを如実に示したが、100余名の出席者は立錫の余地無く料理を煩張りながらビールに、水割りに、顔を赤らめて株式会社和樹の益々の発展を祈念して飲み、且、食したのである。松高同窓会からも東京支部長他10名がその日列席した。写真は偉容を誇る新社屋の前に勢揃した松高卒業生の面々である。出席者は佐伯支部長、中村事務局長の外、何れも同期生の伊藤勇五、芳賀健一、斉藤和男、加藤三代太、鈴木節子、小林早月、一氏愛子、佐藤玲子、そしてこの日のためにわざわざ五泉より駆けつけてくれた坂井エミの各氏である。

（旧中33回、加藤三代太記）



寄稿

旧校歌と軍歌と一高寮歌と

旧校歌「塵の巷を遠ざけて……」を改訂した理由は、創立30周年記念誌（臥龍第29号）によれば、次のとおりである。

1. 公に歌えない時がやってきた。
2. 校歌はすべて許可制になり、改めて文部省に申請しなければならないことになった。
3. 本校歌は、不適當と認められ不許可になった。

しかし、歌詞の内容を読んでみると、清やかで力強い表現になっていると思うのであるが、文部省は愛国的表現が足りないとして、不許可にしたのであろうか。

さて、問題は旧校歌の旋律であるが、私は以前から「…散兵線の花と散れ…」という軍歌に似ていると思っていた。そして、最近偶然にも標準軍歌集（昭和12年10月野ばら社発行、四百ページ、定価38銭）を発見した。早速散兵線の字句をもとに調べてみたら、ついに見付けた。それは陸軍の「歩兵の本領」という軍歌であった。さらに驚いたことには、この軍歌の曲は一高寮歌の「アムール河の流血や」の曲に同じであると注釈がつけられている。アムール河とは、中国名・黒龍江のことで、遼州（中国東北部）とロシアの国境沿いを流れる全長4480キロの世界第8位の大河である。

旧校歌の作詞者は、初代教頭の浮田辰平先生であるが、選曲に当たり学問の府第一高等学校の寮歌の曲を引用し、生徒への向学心を一層燃え上がらせようと試みたのではないかと推測してみた。この曲の作曲者は不明であるが、歌いやすいので陸軍も軍歌の曲に引用したと考えられる。

次に両曲の歌詞（1番のみ）を掲げます。

歩兵の本領 ぼんだ えり	アムール河の流血や
1 萬朶の櫻か襟の色	1 アムール河の流血や うらみ
花は吉野に嵐吹く やまとおのこ	氷りて恨むすびけん
大和男子と生れなば さんべいせん	二十世紀の東洋は かいうんそら
散兵線の花と散れ	怪雲空にはびこりつ

そして昭和16年、相馬御風作詞、中山晋平作曲の現校歌が新たしく制定されたのであるが、これも戦後、歌詞の一部が改訂されている。

斎藤朝之（旧中28回卒）

“おかしな話” 二題

- (1) 自民党の金丸信 前副総裁が東京佐川急便から五億円献金を受け取った事実を認める「上申書」なるものを東京地検に提出した。これを受けて地検特捜部は「略式起訴」という方法を取り、刑が確定すると罰金が最高でも二十万円だという。

敢えて言わせてもらおうが三流政治基地、永田町の論理からすれば、ちっとも珍らしい事ではない。「出頭もしない」「逮捕もされない」「上申書」の提出、そして刑の確定というプロセスが政治家の職務権限だとすれば法律は不公平だあと庶民は思うに違いない。我々が不正に五千万円所得しても一時所得として課税される。それが税金でなく罰金が2万円だったら不公平ではない。そして「上申書」なるものを提出して「出頭」「逮捕」もなければ公平だと庶民は思うだろうか……。

- (2) 銀行が利益追求主義一辺倒で不動産会社に融資し、バブルがはじけて担保の土地が売れないで困っているという。

その土地を専門機関で処理しようと大蔵省が考えているらしい。銀行は多くの庶民から金を預っているから潰すわけにはいかないだろう。しかしながら銀行は営利会社である。景気の良い時は昇給もし、ボーナスだって悪くなかった筈で接待費も大盤振舞だったろう。一般企業では不景気になれば経費を削り、人員整理したりつ企業努力で回復を計るが特定業種に行政が介入するつは不公平であり、市場原理からいってもおかしい話である。

我々中小企業が倒産しそうな時に果たして行政が助けしてくれるのだろうか……。

（1992. 9. 26 高10回、鶴巻 浩）

臥龍が丘慕情（旧中26回 福原平八郎）

1. 松の緑はとこしえに
久遠の理想示しつゝ
臥龍が丘の若人を
励まし続け八十年
2. 新雪丘にきらめきて
若きいのちの群像は
遠い想いを白山に
馳せて学びのペンをとる
3. 学び舎照らす月光は
城下の町の誇りあり
春秋重ね幾星霜
臥龍が丘に夢多し

神風特別攻撃隊・第二御楯隊
総指揮官村川弘大尉の最後

齊藤朝之(中28回)

◎ 昔話になりますが、昭和15年の正月に母校訪問として村松中学校にやってきた海兵の生徒は、たしか村川弘氏であったと思います。

あれからもう50年も過ぎさり、今ここに私めが村川大先輩の特攻戦死の概要をご紹介することになろうとは全く予想もし得ないことでこれも同じ海軍航空隊に籍を置いた者の宿命かと思う次第であります。

さて、私の同期生に梅林義輝(甲飛10期、零戦、愛媛県出身)という者がおります。彼は村川大尉と航空隊にいて、昭和20年2月20日、村川大尉を総指揮官とする神風特攻第二御楯隊(彗星艦爆12機、天山艦攻8機、零戦12機)の出撃を、千葉県香取基地において見送ったと言っております。その彼が本年(平成4年)3月末の同期戦没者慰霊祭で靖国神社へやって来ました。久しぶりに彼と再会し村川大尉の出撃時の様子を精しく聞くことができました。彼も当然に特攻出撃を志願したのですが選に漏れたそうです。

以下、思いつくままに書いてみました。

◎ 村川弘氏(中23回)は、陸軍士官学校と海軍兵学校の両方に合格し、海軍を選んで昭和13年12月1日、広島県江田島の兵学校(第70期)に入校しました。

16年11月15日卒業(434名)、艦隊勤務の後180名が飛行学生として、霞ヶ浦航空隊で九三式中間練習機の操縦訓練を受ける。17年6月1日海軍少尉に任官、宇佐航

空隊で実用機教程(艦上爆撃機)を受ける。18年6月1日中尉に昇進、後に運命の第三艦隊に附属の第六〇一航空隊に配属された。19年5月1日大尉に昇進した。

この六〇一空は、航空母艦の航空隊で零戦、艦上爆撃機「彗星」、艦上攻撃隊「天山」の三機種で編成されていたが、20年2月12日寺岡謹平中将の率いる第三航空艦隊(基地航空部隊)に編入され、関東地方の防衛に当たることになった。六〇一空の司令杉山利一大佐は、千葉県香取基地に移動せよという命令を受け、零戦は岩国基地から、また艦爆と艦攻は松山基地からそれぞれ香取基地へ移動させた。杉山大佐は輸送機で出発し、途中の木更津基地に着陸、第三航空艦隊司令部に司令長官寺岡中将をたずねた。

杉山司令は寺岡長官、山澄参謀長らと懇談の後、長官から「米軍が硫黄島攻略に出た場合は、六〇一空が特攻作戦を実施する」という指示を受けた。

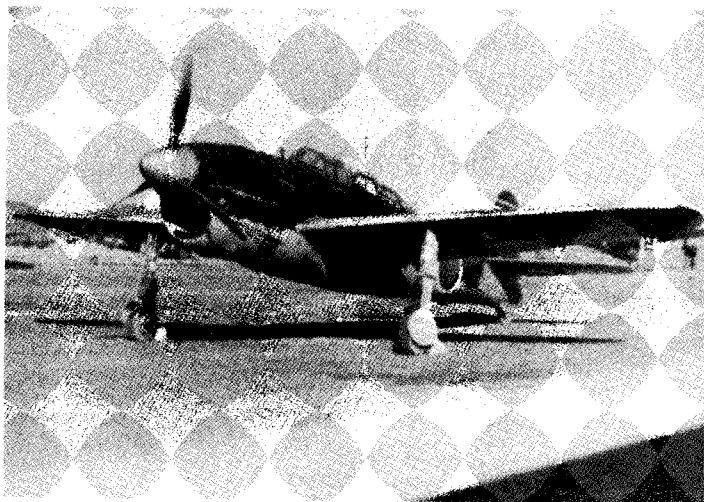
2月14日長官から特攻作戦の準備が発令された。15日午後1時、硫黄島の160度200海裡に敵艦船300隻発見せよという電報を受け取る。16日香取基地は、グラマン艦上戦闘機59機の空襲を受ける。

17日特攻攻撃の挙行が発表され、志願者を募集した。18日塔乗員全員が志願したが、杉山司令に対し「指揮官には自分になる」と艦攻隊の飛行隊長肥田真幸大尉(海兵67期)と艦爆隊の同隊長村川弘大尉が互いに譲らず申し出た。肥田隊長は「先任隊長である」と言い、村川隊長は「使用機の多い爆撃隊の隊長だから当然である」と主張した。結局司令は、村川隊長の意見に同意した。

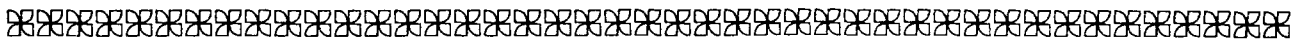
2月19日午前10時、香取基地において寺岡長官が臨場し、特攻隊の命名式が挙行され、「神風特別攻撃隊、第



村川 弘氏
(中学5年時)



艦上爆撃機「彗星」



二御楯隊」と命名された。この日米軍は未明から艦艇150隻、輸送船100隻からなる攻略部隊をもって硫黄島の攻撃を開始したので、特攻出撃は翌20日と決められた。

2月20日いよいよ特攻攻撃決行の朝である。午前8時、山澄参謀長が長官代理として特攻隊の出発を見送りにきた。飛行場の指揮所に訣別の盃の準備が整った。杉山司令の発声で天皇陛下万歳を三唱した後、武田飛行長から行動要領について詳細説明があり、続いて司令から出撃命令が下された。

村川隊長は前に出て、特攻隊員に対し「出発」と号令を掛けた。特攻隊員は、既に整備員によりエンジンの始動されている特攻機に乗り込むと、順序よく次々と出発点に向かった。開けられた風房から手を上げ、参謀長、司令ほか見送りの人々に対し、別れの合図をして次々に離陸していった。

特攻機は次第に高度を取りながら飛行場を一周して、目的地八丈島へ向かった。しかしこの日は、香取基地と八丈島の間に不連続線が残っていて、これを突破することができず、約一時間後に特攻機は全機基地へ引き返してきた。

明くれば21日、昨日と同様に午前8時に飛行場を発進、10時までには全機八丈島に着陸した。そして正午までに彗星艦爆隊と零戦隊は八丈島を出発完了、天山雷撃隊は少し遅れて午後2時までに1機を残して出発したという無線電報が杉山司令に届いた。

午後4時になると、突撃決行に間もない時刻である。電信室では電信員が特攻機の電波を捕捉するのに全力を尽くしている。ダイヤルを左右に少しづつ回して止めた。かすかな符号が入った。ダイヤルの目盛を見直して「第二攻撃隊の一番機です」確信をもって生き生きとした顔でいった。時計は午後4時13分である。また符号が入った。4時14分

「司令“ユタ”です。三番機です」

ユタとは輸送船に体当たりをするという略語である。また符号が入った。4時15分

「指揮官機航空母艦に突入」

と電信員の低い底力のある声。

ツ——と電波音が長く尾を引いている。電信員が

「指揮官機が突入中です」

という。

—— ツツ。電波は切れた。

司令は安心感とともに熱いものがこみ上げてきた。電信

員が

「司令／＼村川隊長母艦に体当たり」

と付け加えた。

特攻機が突入するときは、まず自機の固有の符号を出す。続いて突入する目標をいう。そして目標に向かって突っ込んでいる間は、電鍵を押したままなので「ツ——」と電波を出している。この符号が絶えた瞬間こそ、人と機が共に目標に命中し吹き飛んだときである。

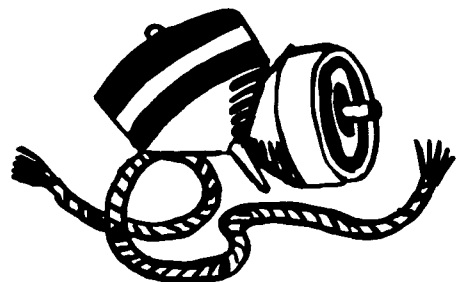
この特攻攻撃で、総指揮官村川大尉ほか計45名が戦死した。

〔参 考〕

1. 硫黄島は、サイパン島から飛び立つボーイングB-29爆撃機を護衛して東京まで飛ぶ長距離戦闘機（陸軍戦闘機（ノースアメリカンP-51））の基地として、米軍はどうしても占領しておきたかったところである。2月19日、米海兵隊は硫黄島に上陸を開始した。この戦闘で2万1千名もの日本軍守備隊は戦死し、島と艦船の上で約7千名の米将兵が戦死、約1万9千名が負傷した。
2. 硫黄島の戦果について、戦後杉山氏は米軍横須賀基地司令官T・P・THEW氏に問い合わせたところ、次の回答を得た。

2月21日に50機つ日本飛行機が攻略艦隊に突入、5機が大型空母サラトガ（3万3千トン）に命中して飛行甲板を破壊し、飛行機格納庫を吹き飛ばし乗員110名戦死。180名が負傷した。この大被害でサラトガは戦列を離れ、本国へ帰った。

また、警戒航空母艦ビスマルクシーは特攻機の攻撃を受け火災発生、母艦の魚雷が自爆して沈没し、347名の将兵が戦死した。運送船ルンポイントとケオクックは、いずれも神風機の攻撃を受けた。



亀嶋氏，母校にて講演

本稿は平成4年9月16日，亀嶋氏の村松高校体育館にて行った在校生に対する講演の要旨である。

赤山会々長 亀嶋 謙（旧中22回卒）

○学習について

私の耳に入ってくる近年の村松高校の評判は余り芳しくない。つまり進学率が大変悪いという評判なのです。しかし，私はこういう考え方には実は余り賛成しないのです。

進学率が高いことは良いことですが，その率によって，その高校の評価が決まるような現代の考え方では，本当の教育を求めることはできない。そこからは極めて常識的な社会的人物しか育てられない。私は高校時代は，もっと自由な伸び々とした空気の中で育てて行くべきだと思ってます。丁度，花の咲く前の草木を，日当りの悪く，風通しもよくないところに植えて朝から晩まで化学肥料をかけて，花が咲き果の実るのを見守っているようなものです。そんなことでどうして大きく咲かせることができます。本当に人物育成の上から考えて大変に悪い環境です。

私はまた，いまの学校の採点法，偏差値的な考え方にも疑問をもっております。採点法も，もっと相対的で弾力的であるべきだと思います。高校時代は，自分がどんな面で人より勝れた能力を持っているのか，将来どの方面に進んだらよいかを考えてみる時代です。また先生も，ただ我武者羅に受験のための勉強をさせるのではなくして，生徒の一人一人の持っている素質とか，隠れた能力を見いだしてやることに力を注いで欲しいと思います。

○スポーツの勧め

皆さんの年頃は身体が柔軟でスポーツを覚えるには最も適する年令です。スポーツは身体を鍛え，将来の健康の基になる骨格を強くします。また刻苦の精神をも学びとります。

それから大切な点は，仲間との連帯意識を高めます。このことは社会へでてから，とても役立つのです。スポーツ上の友人は最高で生涯の友情をもたらし，一生の宝物です。

私の経験ではスポーツを極めた人は身心共に鍛えあげた人が多い。そういう先輩や長上者から強烈な人間的な感化を受けたことがありました。これも人生の大きな宝であったと思っております。皆さん，野球，サッカー，テニス，バレー，バスケット，柔剣道，どの道でも結構です是非やっておくべきです。

○読書に就て

皆さんの年齢はまた知識を吸収するのに湧きでる泉水

の如く，こよなく良い年齢です。当然その時期に教科書以外の読書にも興味津々たるものがあるべきだと思います。

読書となると私は何と言っても古今東西の名著と言われる本を勧めたい。長い年月に亘って世界中の人々に読み続けられてきたものは思想上や哲学，心理描写や鋭い感覚に本当によい内容をもっているからなのです。

私が皆さんの頃，夢中になって読んだ本は，ユーゴー「レ・ミゼラブル」，デュマ「モンテ・クリスト伯」，デフォー「ロビンソン・クルーソー」，グリム童話集，ロマン・ローラン「シャン・クリストフ」，夏目漱石全集，ヒルティ「幸福論」「眠られぬ夜のために」「福翁自伝」，「フランクリン自伝」，「三国志演義」などでした。

殆んど岩波文庫版で読みました。興奮して治まらず，寝床の中へ入っても眠れず夜を徹して読みふけたことさえ屢々ありました。

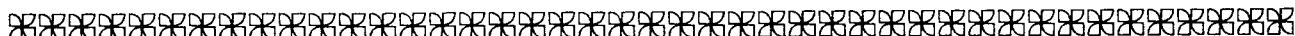
私は，これらの利を後年の40代，50代，60代と全冊何回も読み直しました。幾才になっても同じように感涙しました。そこには困苦に満ちた人生を切抜いていく内に溢れでる人生の大切なもの，人間の清純な魂，優しい愛情，大自然のもつ畏敬を，ひしひしと感じさせるからです。良書とは本当にありがたいものなのです。一生の心の糧になります。皆さんどうか，名著の読書をすることです。

○人生に就て

人生を勝ち抜くには，素質と努力と運の三つで決まると申します。多くの方は運が全てであると言う人が多いでしょうが三つの要素のからみ合いで決まるようです。素質の中には頭脳の外に創造性や決断力，判断力や調和性などが含まれていて決して単なる頭脳ばかりではないのです。普通人には努力が中心です。人間には運不運が交互にきて決して一方的ではありませんが，不運のとき不平不満を言ったり，ひがみや恨みごとに陥入り，努力を怠ったりする人には運は遠去ります。反対に不遇にめげず努力に務める人には必ず運がきます。この事は皆さん，しっかり覚えていて下さい。

将来，必ず思い当たる時があります。

さて皆さん，この地球ができてから，一体どの位の年月が経っているかと思いませんか。いまの学者の推定では百億年というのが定説です。それでは人間は，この地球上にいつから現われたかといいますと推定で僅かに百万年位だそうです。すると人間は長い長い進化の途を辿ってこの地上に現われたのです。そう考えますとき私は，人間という生物を畏敬の念と驚異の念をもって凝視しなければなりません。しかも生命は，たった一つしかない。人生は二度とやり直しができない。人生は一ぺんこっきりです。この二つともない，かけがえのない人生を，いかに良く生きるか。いかに生き甲斐のある一生にするか。



これが人間にとって最も大切なことであろうと思うのです。このところを皆さんは、よく考えて欲しいのです。

ともあれ皆さんは、人生の最も良き青春のとき、この緑に囲まれた美しい自然の村松高校に学んでいるのです。どうかよく学び、よく青春を謳歌してください。そして卒業したら村松高校は、いい母校であると胸を張って自

分にも人にも語ることができる思い出の学校として母校を愛し、そういう校風をあとの後輩のために残して欲しい。

それでは親愛なる母校の皆さん、さようなら

歳時記風土

(旧中11回 長崎 浩)

玩具のような電車を降りると村松町

まつ白に出迎える顔は

白山菅名岳五頭山川内連峰

むっとりおし黙る朴訥な北の貌は

わが情熱の祖型(中略)

ぶこつな北国の意志をはぐくむ故園

こゝは遥かな遠い少年の日

私が秘かな反骨を燃した町だ。

※この詩は平成元年五月一日の新潟日報に掲載されたもので、旧中26回卒の中村市雅一郎氏より同級の福原氏を通じて送られて来たものである。(長崎氏は新津市在住で東京支部の水尾正二、川瀬五郎両氏と同級である。)

〔訃 報〕

旧中第7回卒業の杵渕政光氏(高2回卒 杵渕政海氏の御尊父)が平成4年7月24日、心不全のため死去された。享年89歳。柔道九段。

告別式は7月28日正午より中野の宝仙寺にて行なわれ、村松より関谷正中先生(高6回)が来られ導師を務められた。東京支部からは、川瀬五郎、亀嶋 謙、中野 博、佐伯益一氏らが葬儀に参列した。

尚、杵渕氏は講道館の始祖、嘉納治五郎先生により江田島の海軍兵学校の体育教官として派遣されており、戦後は東海大名誉教授として同大学柔道の佐藤監督、山下選手を育てあげた人として有名である。母校村松高校の教師も務められている。

6月には旧中第4回卒の高岡大輔氏(元衆議院議員)も亡くなられている。氏はインド通として著名な外交官であった。

謹んで哀悼の意を表し、御冥福を祈りたい。

〔支部役員を委嘱〕

東京支部では支部の組織を尚一層強固にするため、かねてから役員(幹事)の増員を図っていたが、このたび次の女性5名の御快諾を得、御活躍を願うこととなった。これで役員数は男子25名、女子15名、計40名となるが、昭和41年卒業以後の役員は1名しか居ない。お手伝いする方を求めています。自薦、他薦、結構、御紹介下さい。

※新幹事(10月30日付)

- 鈴木節子さん(昭和22年旧女25回卒)
- 近藤燦子さん(昭和35年高校12回卒)
- 渡辺厚子さん(”)
- 中島和子さん(”)
- 田淵みやのさん(”)

よろしくお願いいたします。

謹 賀 新 年

平成五年元旦

本年もよろしくお願いいたします。

新潟県立村松高等学校同窓会東京支部 役員一同



ちょっといい話

兔追いしかの山 小鮎釣りしかの川

夢は今も巡りて 忘れがたきふる里

中村事務局長の御提案で、関氏リードによる“ふる里”合唱が始まりました。始めの内、声調が合わず、大混声？合唱でしたが、歌っている内に心が一致してきたようで微妙なハーモニーを醸し出し、本当の大合唱になってきました。この歌で皆、母校や、故郷を語りたくなったようです。

新しくいらした校長先生は昭和11年生まれだそうで、新制七回生の私達とは同世代、何となく親しみを覚えます。

— 今日はわざわざお越し下さいまして、ありがとうございます。ビールをお飲みですか？ どうぞ。

— あ、我々みんなこうしてね、母校の事が心配で、みんなして一生懸命ですからね。佐伯さんの人柄にホレて、一生懸命なんですよ、と伊藤勇五さん。

— そうですか。大したものですね。若い方や、女性の方でも役員になって居られて。

— 今年はこれでも、ちょっと少ない方なんです。来年はもっと来て貰えるようにしないとね。

— 校長先生とは私、同世代なんです。とうとう“校長先生と同年”って年になったねって、同期の近藤さん、八木さんと話していたんです。

— そうですか。松高は私、二度目なんです。良い所ですね。街歩いていると“今日は校長どこへ行くんだ？”ってウワサしてるらしいんです。挨拶に行っただって言っても、“どこかへ飲みに行ったんだろう”って。私、人相悪いもんで、すぐ覚えられましてね。23年前転出した時の記念写真を見せてくれたんですが、どれが私が解らなかった。それ程、人相悪くなってしまった。昔は私もふっくらして、いい男だったんです。

— 御苦労なさったんでしょう？ 最初は、新卒でいら

したんですか？

— いいえ、当時松高は、新採用の教員は取らない時代だったんです。それだけの見識、プライドがあったんです。私も五年間他の学校にいまして、その後、丁度恩師が松高の教頭をしてまして“お前、来い”と。私は、松高はみんなバリバリ勉強してるから、オッカナイって言ったんです。“進学指導してたんだから大丈夫だ、来い”と言われまして、4年間お世話になりました。

お話を聞きながら会場を見廻わすと、程良い年配の集団が和気あいあい話しています。それは新制八回生の皆さんでした。「随分多勢出席してる様だけど、十回生には負けるでしょう。我々は13名出席ですよ」と大威張りしてるのは大橋さんです。

六回生の関谷先生も、“故郷”としての村松を語って下さいました。

— 村松は変わらないようできて、それでも、何時の間にか人が変わり、街の風情が変わり、少うしづつゆっくりと移り変っているんですね。私は松高出てから15年間村松に住んでいなかったんですが、そう、キンモクセイが咲く頃でした。家の檀家総代が亡くなった知らせを貰って、柏崎から……その頃4時間かかりましたよ……夜の8時頃だったか……もう真暗で、西村松の駅に着いたんです。そうしたらね、降りたとたん、パーッとキンモクセイの香りが漂ってましてね。これだ。これが、村松の匂いなんだって、あの時始めて“故郷”を意識しました。考えてみると、村松の人は非常に樹木を愛する人達なんです。いい所です、村松は。

志しを果たして いつの日にか帰らん

山は青きふる里 水は清きふる里

すばらしい大合唱でした。又ひとしきり、酒と料理と歓談と、楽しい時が流れて行きました。

(支部大会にて 幹事 深見洋子)

阿賀野川ラインの景勝地

きりん山温泉

ホテル 福 泉

磐越西線 津川駅又は鹿瀬駅下車 バス10分 (東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬)

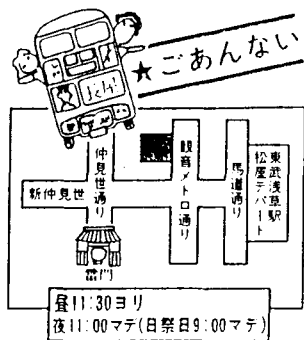
電話 02549-2-3131

いつもご利用いただきまして有難うございます。本年も又、どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐 伯 光 俊

そば処・酒屋

ふる里の酒、越後の地酒を取揃えました。



越後茶屋 ^{おまぐさ} 長屋

☎3845-0830

観音メトロ通り

台東区浅草1-32-10(九十一ビルB1)

編集後記

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は皆様方のご協力、ご支援をいただき誠にありがとうございました。今年もよろしくお願い申し上げます。

現在社会では酒を飲む機会が毎日のように私達を誘います。毎年お正月になると、今年こそ飲食過多症に注意しようと思いを表明しますが、すぐに自然体に戻ってしまいます。年頭にあたり、貝原益軒の「養生訓」から飲食に関する教を抜粋します。参考にさせていただき皆様方の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

1. 養生の術はまず心気を養ふべし。心を和にし、気を平らかにし、いかりと欲をおさえ、うれい・思ひを少なくし、心をくるしめず、気をそこなわず是心気を養う要道なり。
2. 養生の道は、病なき時につつしむにあり。養生の道なくして多病にくるしみ、元氣おとろへて、はやく老けもうす。
3. 飲食は人の大欲にして、口腹の好む処也。ほしいままにすれば、節に過て必ず脾胃をやぶり、諸病

を生ず。

4. すべての食、淡泊なる物を好むべし。珍美の食に対すとも、八、九分にてやむべし。十分に飽き満るは後の禍あり。欲をこらゆれば後の禍なし。
5. 飯はよく人をやしなひ、又よく人を害す。故に飯はことに多食すべからず。薬を用いて食を消化するは、是わが腹中を以敵・身方の戦場とする也。
6. 飲食十分に満足するは禍の基なり。花は半開に見酒は微酔にのむといへるが如くすべし。欲をほしいままにすれば禍となる。楽しみの極まれるは悲みの基なり。
7. 酒は天の美禄なり。酒を飲むには各人によりてよき程の節あり。少しのめば益多く、多くのめば損多し。人の病、酒によって得るもの多し。

本号発行にあたり、皆様からのご寄稿、写真、広告掲載等ご協力ありがとうございました、厚く御礼申し上げます。

広報部

平成5年1月 第14号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

広報部

事務局 〒108 東京都港区高輪2-1-24 (株) 寿内

TEL 03-3445-6501

郵便振替 東京 2-136445